

第三類 艦船

艦艇本籍別一覽表

大正四年四月一日調

軍艦

鎮守府	佐世保鎮守府			吳鎮守府			橫須賀鎮守府		
鹿島香取三笠周防吾妻阿蘇春日	鳥羽伏見隅田	笠置利根秋津洲	薩摩敷島前霧島比叡出雲磐手	明石千代田大和淀龍田韓崎駒橋	生駒淺間常磐千歲平戶矢矧嚴島	扶桑攝津安藝石見富士丹後伊吹	武藏滿州千早	八雲津輕宗谷橋立音羽壹岐松江	河内朝日相摸榛名金剛鞍馬筑波

第三類 艦船 艦艇本籍別一覽表

一七

1115

横須賀	水雷艇	府守鎮保世佐			府守鎮吳			府守鎮賀須横			府
雉		綾	夕	柳	疾	初	潮	隴	霰	海	日
鴻		波	立		風	春				風	進
鷗		朝	白	楓	村	卯	子	山	初	山	筑
白		霧	雪		雨	月	日	彦	霜	風	摩
鷹		朝	三	桂		水	朝	叢	神	櫻	新
第六十六號		潮	日			無	風	雲	風		高
第六十七號		白	野	梅		長	若	夕	彌	橘	對
第六十八號	雲	分			月	葉	霧	生		馬	
		松	楠		菊	春	陽	如	樺	見	
		風			月	風	炎	月		島	
		浦	夕		追	初	不	響	有		
		波	暮		風	雪	知		明		
		磯	白		夕	時	火	曙	吹		
		波	露		風	雨	薄		雪		
							雲				

第三類 艦船 艦艇本籍別一覽表

一八

1116

第三類 艦船 艦艇本籍別一覽表

守府	吳鎮	潛水艇			舞鶴	府鎮守	佐世保	守府
第八	第一				第七十五號	隼	雁	第七十號
第九	第二					鵠	蒼鷹	第七十一號
第十	第三					真鶴	鶴	第二十九號
第十一	第四					千鳥	燕	
第十二	第五					第七十二號	雲雀	
第十三	第六					第七十三號	鷺	
	第七					第七十四號	鶉	

第三類 艦船 雜役船種類所屬及定數表

二〇(自二一
至二四)缺

大正三年内
令五九
同三三五改

大正二年十二月二日内令第百八十八號
雜役船種類所屬及定數別表ノ通定

1118

大正三年十二月一日内令第三百四十一號

艦隊平時任務左ノ通定メラル

第一、第二艦隊ハ專ラ教育訓練ニ從事シ兼テ本邦支那及東亞露領沿海ノ警備ニ任ス

第三艦隊ハ專ラ揚子江流域及膠州灣以南膠州灣ヲ除クニ於ケル支那沿海ノ警備ニ任ス

練習艦隊ハ海軍少尉候補生ノ練習ニ任ス

第三類 艦船 艦隊平時任務

二五

1120

四十三年内
令一〇二
四十四年内
令三〇〇大
正三年内令
一九八
大正三年内
令一八四改

明治四十二年十月二十三日内令第百八十二號
艦内編制規程左ノ通定ム

艦内編制規程

第一條 艦内編制ハ戰闘ニ適スルヲ以テ主眼トシ 艦内ノ各部、物件及人員ヲ區分編成スル

モノトス

第二條 砲臺、水雷砲臺及機關部ノ區分ハ左ノ諸號ニ準據スヘシ

一、砲臺

- イ、砲臺ハ砲火指揮上ノ便ニ依リ艦砲ノ裝備位置ニ應シテ之ヲ數群ニ分テ艦首ヨリ艦尾ニ至ル順序ヲ以テ番號ヲ附スルヲ例トシ第一砲臺、第二砲臺等ト稱ス但シ特殊ノ理由ニヨリ砲臺ヲ左右兩舷ニ區分シタルトキハ其ノ番號ハ右舷ヨリ左舷ニ及フモノトス
- ロ、砲臺ハ成ルヘク中口徑以上ノ同種砲ニ就キ區分スルモノトス
- ハ、補助砲ハ其ノ裝備ノ位置ニ應シ附近ノ砲臺ニ分屬セシムルヲ例トシ場合ニ依リテハ之ヲ獨立砲臺ト爲スコトヲ得
- ニ、一砲臺ノ砲數ハ指揮上適度トスル所ヨリ多キニ過クルコトナキヲ要ス

1121

二、水雷砲臺

水雷砲臺ハ魚形水雷發射指揮上ノ便ニ依リ發射管ノ裝備位置ニ應シテ之ヲ數群ニ分チ艦首ヨリ艦尾ニ至ル順序ヲ以テ番號ヲ附シ第一水雷砲臺第二水雷砲臺等ト稱ス

三、機關部

イ、機關部ハ之ヲ機械部、罐部、電機部及補機部ニ分チニ坐以上ノ主機械若ハ主罐ヲニ室以上ニ分割裝備セル場合ニハ更ニ右舷機械部、左舷機械部若ハ第一罐部、第二罐部等ト稱ス又電機部ハ場合ニ依リ補機部ニ合併ス

ロ、機械部ハ機械室、主機械及其ノ關聯裝置機械室ニ在ル他ノ諸裝置竝機械室ニ接セル複底及機關科倉庫(機關科兵器倉庫ヲ除ク)工場ヲ包括ス

ハ、罐部ハ罐室、主罐、補助罐、各其ノ關聯裝置、罐室ニ在ル他ノ諸裝置竝罐室ニ接セル複底、煙突、重油庫、石炭庫等ヲ包括ス

ニ、電機部ハ電力機械及其ノ關聯裝置竝取扱上電力機械ト密接ノ關係アル諸裝置ヲ包括ス

ホ、補機部ハ他部ニ屬セサル各補助機械及諸裝置ヲ包括ス

ヘ、機關科兵器倉庫ハ獨立セル電機部アルトキハ之ニ附屬シ然ラサレハ補機部ニ附屬

セシム

第三條 下士卒ハ其ノ兵種ニ應シ左ノ如ク呼稱ス

兵 曹、水 兵

水 兵 部 員

機關兵曹、機關兵

機 關 部 員

船匠手、木工

船 匠 部 員

看護手、看護

看 護 部 員

筆記、廚 宰、主 廚

主 計 部 員

軍樂手、軍樂生

軍 樂 部 員

又船匠部員、看護部員、主計部員、軍樂部員ヲ總稱シテ雜部員（船人ハ雜部員ニ加フ）ト謂フ

第四條 戰鬪部署ニ於ケル下士卒ノ區分名稱等ハ左ノ諸號ニ依ルヘシ

一、砲臺附下士 砲臺ニ在リテ砲、砲具ニ注意シ且要スレハ砲臺ノ傳令ニ従事スル者ニシテ兵曹ヲ以テ之ニ充ツ

二、砲員 砲ヲ操作シ彈藥ヲ裝填シ照準發射ヲ爲ス人員ニシテ水兵部員ヲ以テ之ニ充テ其ノ各砲（砲塔砲ヲ除ク）ノ首席砲手ヲ砲長ト稱ス

砲塔砲ニ在リテ砲員及彈藥庫員ヲ統轄スル兵曹（上等兵曹）ヲ砲塔長ト稱ス

- 三、彈藥庫附下士 彈藥庫ノ一群ヲ監督スル者ニシテ必要ニ應シ之ヲ配シ兵曹ヲ以テ充ツ
- 四、彈庫員 彈庫ニ在リテ彈丸ノ供給ヲ爲ス者ニシテ水兵部員ヲ以テ之ニ充テ其ノ各庫ノ首席者ヲ彈庫長ト稱ス
- 五、火藥庫員 火藥庫ニ在リテ火藥ノ供給ヲ爲ス者ニシテ水兵部員ヲ以テ之ニ充テ其ノ各庫ノ首席者ヲ火藥庫長ト稱ス
- (註) 彈庫員、火藥庫員ヲ併稱スル場合又ハ一庫内ニ彈丸火藥ヲ收納スル場合ニハ其ノ庫員ヲ彈藥庫員ト稱シ其ノ首席者ヲ彈藥庫長ト稱ス
- 六、彈藥供給員 彈藥庫外ニ在リテ彈藥ノ運搬引揚ニ從事シ之ヲ砲側ニ供給スル人員ノ總稱ニシテ水兵部員ヲ主トシ機關部員、主計部員ヲ以テ之ニ充テ次ノ如ク區別ス
- イ、揚彈藥員 揚彈藥裝置ニ就キ彈藥ヲ揚クル者ヲ謂フ
- ロ、運彈藥員 彈藥庫ヨリ揚彈藥裝置若ハ砲側ヘ又ハ揚彈藥裝置ヨリ第二ノ揚彈藥裝置若ハ砲側ヘ彈藥ヲ運搬スル者ヲ謂フ
- (註) 彈藥庫員並彈藥供給員ハ砲種、砲番號、甲板等ニ依リテ區別シ前部六吋砲彈藥庫員、一番六吋砲揚彈藥員、前部中甲板三吋砲運彈藥員等ト稱ス
- 七、掌砲科要員庫員 砲具等ノ供給ヲ爲ス者ニシテ水兵部員ヲ以テ之ニ充ツ

- 七ノ二、掌砲科火管庫員 擊發火管及電氣火管ノ供給ヲナスモノニシテ水兵部員ヲ以テ之ニ充テ掌砲科要具庫員又ハ小銃彈藥庫員ヲレテ兼ネシムルヲ例トス
- 八、水雷砲臺附下士 水雷砲臺ニ在リテ傳令ニ從事シ發射管ノ操作及諸準備ニ注意スル者ニシテ兵曹ヲ以テ充ツ
- 九、發射管員 發射管ノ操作或魚雷ノ調整、裝填、發射等ニ從事スル人員ニシテ水兵部員ヲ以テ之ニ充テ其ノ各發射管員中ノ首席者ヲ發射管長ト稱ス
- 十、探照燈員 探照燈ヲ操作スル者ニシテ水兵部員ヲ以テ之ニ充テ他ノ水雷部員ヲシテ兼ネシムルヲ例トス
- 十一、水雷火藥庫員 魚形水雷頭部、發射火藥其ノ他爆藥ノ供給ヲ爲スモノニシテ水兵部員ヲ以テ之ニ充テ其ノ各庫ノ首席者ヲ水雷火藥庫長ト稱ス
- 十二、掌水雷科信管庫員 水雷用信管發射火藥用火管其ノ他ノ火工品ノ供給ヲ爲ス者ニシテ水兵部員ヲ以テ之ニ充テ掌水雷科要具庫員ヲシテ兼ネシムルヲ例トス
- 十三、掌水雷科要具庫員 水雷要具ノ供給ヲ爲ス者ニシテ水兵部員ヲ以テ之ニ充テ水雷火藥庫員若ハ電路員ヲシテ兼ネシムルヲ例トス
- 十四、電路員 通信用、發砲用其ノ他電氣裝置(砲側ニ於ケルモノハ砲員ノ受持トシ機關

部ニ屬スルモノハ機關部員ノ受持トスノ監視及修理ヲ爲ス者ニシテ水兵部員ヲ以テ之ニ充ツ

十五、電信員、無線電信及無線電話ノ通信ニ従事スルモノニシテ水兵部員ヲ以テ之ニ充テ其ノ首席者ヲ電信長ト稱ス

(註)前掲八ヨリ十五マテノ諸員ヲ總稱シテ水雷部員ト謂フ

十六、砲火指揮幹部附屬員、砲火指揮ニ關スル諸器具ノ取扱、砲火指揮ノ傳令竝距離ノ測定ニ従事スル者ニシテ水兵部員ヲ以テ之ニ充ツ

距離ノ測定ニ従事スル者ヲ測距手ト稱ス

十七、傳令員砲火指揮ニ關スル傳令員ヲ除ク以下同シ艦内ノ通信傳令ニ従事スル者ニシテ水兵部員等ヲ以テ之ニ充ツ

傳令員ハ其ノ位置任務等ニ應シ艦橋傳令員、中甲板傳令員等ト稱ス

十八、應急員、補索、防火、防水、破壊物除去、船體船具ノ應急修理其ノ他戰闘中起ルヘキ

諸般ノ應急任務ニ従事スル者ニシテ之ヲ上甲板應急員ト中下甲板應急員トニ分テ水兵部員、船匠部員ヲ以テ之ニ充ツ但シ船匠部員ハ主トシテ中下甲板ニ配スルヲ例トス

十九、見張員、機械水雷、魚形水雷其ノ他危險物ノ浮流、艦艇ノ接近等ニ注意スル者ニシ

テ水兵部員ヲ以テ之ニ充ツ

二十、操舵員 操舵ニ従事スル者ニシテ水兵部員ヲ以テ之ニ充テ其ノ首席者ヲ操舵長ト稱ス

二十一、信號員 信號及傳令ニ従事スル者ニシテ掌信號兵タル水兵部員ヲ以テ之ニ充テ其ノ首席者ヲ信號長ト稱ス

二十二、治療所員 傷者ノ看護治療ニ従事スル者ニシテ看護部員、主計部員ヲ以テ之ニ充ツ

二十三、傷者運搬員 傷者ヲ治療所ニ運搬收容スル者ニシテ主計部員等ヲ以テ之ニ充ツ

二十四、烹炊員 烹炊ノ業務ニ従事スル者ニシテ廚宰、主廚ヲ以テ之ニ充ツ

機械部員ハ左ノ如ク區分ス

二十五、機械部員 機械室ニ在リテ機械ノ運轉操縦ニ關係アル諸作業ニ従事スル者ニシテ左ノ如ク區別ス

イ、運轉下士 機械ノ運轉ニ關スル諸作業ニ注意スル者ニシテ機關兵曹ヲ以テ之ニ充ツ

ロ、注油員 機械各部ノ注油ニ従事スル者ヲ謂フ

- ハ、機械室傳令員 機械室若ハ同室内通信室ニ在リテ通信装置ヲ取扱ヒ又ハ傳令ニ從事スル者ヲ謂フ
- ニ、燈火員 機械室内燈火ノ整備ニ從事スル者ニシテ注油員ヲシテ兼ネシムルヲ例トス
- ホ、倉庫員 需品、材料、要具等ノ供給ニ從事スル者ヲ謂フ
- ヘ、應急作業員 機關、兵器並船體等ノ破損ニ對シ應急修理ニ從事スル者ヲ謂フ
- 二十六、罐部員 罐部ニ在リテ汽釀ニ關スル諸作者ニ從事スル者ニシテ左ノ如ク區別ス
- イ、汽釀下士 汽釀ニ關スル諸作業ニ注意スル者ニシテ機關兵曹ヲ以テ之ニ充ツ
- ロ、給水員 各罐室ニ於ケル給水装置ノ取扱ニ從事スル者ヲ謂フ
- ハ、焚火員 給炭整火ノ作業ニ從事スル者ヲ謂フ
- ニ、搬炭員 石炭ノ繰出及塊炭ノ破碎ニ從事スル者ヲ謂フ
- ホ、通風員 通風装置ノ取扱ニ從事スル者ヲ謂フ
- ヘ、給炭傳令員 適當ナル給炭傳令装置ナキトキ號笛ヲ以テ給炭ヲ傳令スル者ヲ謂フ
- ト、罐室傳令員 罐室ニ在リテ通信装置ヲ取扱ヒ又ハ傳令ニ從事スル者ヲ謂フ
- チ、燈火員 罐室内燈火ノ整備ニ從事スル者ニシテ搬炭員ヲシテ兼ネシムルヲ例トス

二十七、電機部員 電機部ニ屬スル諸機械諸裝置ノ運轉操縦ニ關係アル諸作業ニ従事スル者ニシテ次ノ如ク區別スルヲ例トシ其ノ取扱フ機械等ノ稱號ニ依リ前部發電機員、何號揚彈電動機員等ト稱ス

イ、發電機員 發電機及其ノ關聯裝置ノ取扱ニ従事スル者ヲ謂フ

ロ、電動機員 電動機及其ノ關聯裝置ノ取扱ニ従事スル者ヲ謂フ

ハ、電路員 機關部ニ屬スル電路ノ監視及修理竝白熱電燈ノ整備ニ従事スル者ヲ謂フ

ニ、電機部傳令員 電機部ニ在リテ傳令ニ従事スル者ヲ謂フ

二十八、補機部員 補機部ニ屬スル諸機械諸裝置ノ運轉操縦ニ關係アル諸作業ニ従事スル者ニシテ次ノ如ク區別スルヲ例トシ其ノ取扱フ機械等ノ稱號ニ依リ前部何機員、何號何機員等ト稱ス

イ、水壓機員 水壓機械及其ノ關聯裝置ノ取扱ニ従事スル者ヲ謂フ

ロ、舵取機員 機械室外ニ獨立セル舵取機械ノ取扱ニ従事スル者ヲ謂フ

ハ、補機部傳令員 補機部ニ在リテ傳令ニ従事スル者ヲ謂フ

ニ、空氣壓榨機員 空氣壓榨機械及其ノ關聯裝置ノ取扱ニ従事スル者ヲ謂フ但シ裝備ノ位置ニ依リテハ電機部員ニ編入ス

ホ、冷却機員 冷却製氷装置ノ取扱ニ従事スル者ヲ謂フ
 ヘ、蒸化器員 蒸化蒸餾装置ノ取扱ニ従事スル者ヲ謂フ
 ト、補助復水器員 機械室以外ニ獨立セル補助復水器ノ取扱ニ従事スル者ヲ謂フ
 二十九、機關部甲板作業員ハ機關部外ノ防火逆彈等ニ従事スル者ニシテ其ノ目的ニ適應
 シ且機關ノ全力發生ヲ妨ケサルヲ標準トシテ機關部員ヲ以テ編成ス
 戦闘ニ際シ前掲以外ノ補助機械ニ配員スル必要アルトキハ前諸項ニ準シ當該機械ノ稱
 號ヲ冠シテ何號何機員何用何機員等ト稱ス
 第五條、前條ニ依ルノ外平素ノ職務ニ對シ所要ノ下士ニ特別ノ職名ヲ附ス其ノ種類竝之ニ
 充ツヘキ者ハ左ノ標準ニ依ル
 掌砲長屬 砲臺附下士又ハ彈藥庫附下士ノ内若ハ彈藥庫員、彈藥供給員、掌砲科要具庫員
 中ノ下士
 掌水雷長屬 水雷砲臺附下士ノ内若ハ水雷火藥庫員、掌水雷科信管庫員、水雷要具庫員、
 電路員中ノ下士
 掌帆長屬 傳令員若ハ應急員中ノ下士
 先任衛兵伍長 戦闘部署ノ如何ニ拘ラス適當ナル兵曹

艦底長 應急員中ノ下士

機械室長 各機械部ニ於ケル首席下士

罐室長 各罐部ニ於ケル首席下士

電壓機長 前部後部等ノ區分ニ依リ一群ノ電力機員中ノ首席下士

水力機長 前部後部等ノ區分ニ依リ一群ノ水壓機員中ノ首席下士

補機長 前部後部等ノ區分ニ依リ一群ノ補助機員中ノ首席下士

機關部倉庫長 機關部倉庫員中ノ首席下士

工業長 機關部應急作業員中ノ首席下士

第六條 軍艦ノ下士卒ハ左ノ諸號ニ準據シテ若干ノ分隊ニ編成シ各分隊長ヲ配ス

一、一砲臺ノ下士卒ハ分離スルコトナク同一分隊ニ編入ス

二、機動砲ノ彈藥庫員ハ其ノ砲ト同一分隊ニ編入ス

三、機動砲ニアラサル砲ノ彈藥庫員竝彈藥供給員(雜部員ヲ除ク)ハ若干ニ區分シテ其ノ

關係砲ト同一分隊ニ編入ス但シ一彈藥庫ヨリ二箇以上ノ砲臺ニ彈藥ヲ供給スル場合ニ

ハ其ノ内關係最も多キ分隊ニ編入シ又特殊ノ場合ニハ必要ニ應シ一彈藥庫員ヲ二個分

隊以上ニ分チ編入スルコトヲ得

四、砲員、彈藥庫員等ヨリ成ル分隊ノ人員數ハ前諸號ノ範圍内ニ於テ成ルヘク相等シカラシムルコトニ注意スヘシ

五、水雷部員ヲ以テ別ニ分隊ヲ編成ス但シ發射管ヲ有セサル艦ニ在リテハ之ヲ他ノ分隊(機關分隊ヲ除ク)ニ編入ス

六、見張員、傳令員(雜部員ヲ除ク)掌砲科要具庫員ハ其ノ關係多キ分隊ニ編入ス又砲火指揮幹部附屬員ハ之ヲ以テ別ニ一個分隊ヲ編成スルカ若ハ關係多キ分隊ニ編入ス

七、操舵員、應急員、信號員、治療所員、傷者運搬員、烹炊員並其ノ他ノ雜部員ヲ合併シテ一個分隊ヲ編成ス但シ小艦ニ在リテハ便宜ノ分隊(機關分隊ヲ除ク)ニ編入ス

八、機關部員ハ機關ノ裝備ニ應シ左例ノ一ヲ選ミ分隊ニ編成ス

イ、機械部員、罐部員ヲ以テ各一個分隊トシ電機部員、補機部員ヲ以テ各一個分隊トス

ロ、機械部員、電機部員、補機部員ヲ以テ各一個分隊トシ罐部員ヲ以テ二個分隊トス

ハ、機械部員、罐部員、電機部員、補機部員ヲ以テ各一個分隊トス

ニ、機械部員、罐部員ヲ以テ各一個分隊トシ又電機部員、補機部員ヲ以テ一個分隊トス

ホ、機械部員、電機部員、補機部員ヲ合併スルカ若ハ罐部員、電機部員、補機部員ヲ合併

シテ一個分隊トシ其ノ殘餘ヲ以テ又一個分隊トス

へ、機關部員全部ヲ以テ一個分隊トス

九、特別定員ヲ置カレタルトキハ成ルヘク前諸號ニ依リテ分隊ヲ編成シ必要ニ應ジ分隊長ヲシテ二箇以上ノ分隊ヲ兼務セシムヘシ但シ機關部員ハ機關官タル分隊長ニ屬セシムヘシ

第七條 分隊ニハ左ノ諸號ニ依リ番號ヲ附スヘシ

一、砲員、彈藥庫員等ヨリ成ル分隊、砲火指揮幹部附屬員ヨリ成ル分隊、水雷部員ニ成ル分隊其ノ他ノ水兵部員並雜部員ニ成ル分隊及機關部員ニ成ル分隊ノ順序ニ依リ一連ノ番號ヲ附シ第一分隊、第二分隊等ト稱ス

二、砲員、彈藥庫員等ヨリ成ル分隊ニ在リテハ第一砲臺ヲ第一分隊トシ第二砲臺ヲ第二分隊トスル如ク砲臺ト同一ノ番號ヲ附スルモノトス

三、機關部員ニ成ル分隊ノ番號ハ機械部員、罐部員、電機部員、補機部員ノ順序ニ依ルモノトス

第八條 准士官以上ハ配置ニ依リ左ノ如ク呼稱ス

一、艦長ノ命ヲ承ケ砲火指揮ノ全般ヲ擔當シ且主要ナル砲火ヲ直接指揮スル將校ヲ砲火指揮官ト稱シ其ノ以外ノ砲火指揮ヲ分擔スル將校ヲ砲火分擔指揮官ト稱シ又以上指揮

1133

官ノ射撃スル以外ノ目標ニ分火スルトキ其ノ目標ニ對スル砲火指揮ヲ分擔スル將校ヲ分火指揮官ト稱ス

以上各指揮官ノ命ヲ承ケ直接射撃ニ關スル號令ヲ擔當スル將校ヲ射撃號令官ト稱ス
砲火指揮官、砲火分擔指揮官、分火指揮官並以上各指揮官ノ命ヲ承ケ其ノ業務ヲ補佐又ハ分擔スル將校及射撃號令官ヲ總稱シテ砲火指揮幹部員ト稱ス

二、水雷防禦部署ニアリテ一群ノ砲(探照燈)ヲ指揮スル將校ヲ砲群(燈群)指揮官ト稱ス
三、砲臺(水雷砲臺)ヲ指揮監督スル分隊長ヲ砲臺(水雷砲臺)長ト稱シ之ニ屬スル將校ヲ砲臺(水雷砲臺)附將校ト稱シ兵曹長、上等兵曹ヲ砲臺(水雷砲臺)附兵曹長、上等兵曹ト稱ス

四、機械部、罐部、電機部、補機部ニ屬スル機關中少尉ヲ何部附機關官ト稱シ機關兵曹長、上等機關兵曹ヲ何部附機關兵曹長若ハ上等機關兵曹ト稱ス

五、前諸項ノ外中少尉及機關中少尉ハ其ノ配置ニ從ヒ艦長附、副長附、航海長附、砲術長附、水雷長附、機關長附、分隊長附等ト稱ス

第九條 准士官以上ヲ配置スルニハ左ノ諸號ニ依ルヘシ

一、砲火指揮官ハ砲術長ヲ以テ之ニ充テ砲火分擔指揮官分火指揮官ハ適任ナル將校分隊長ヲ以テ之ニ充テ其ノ他ノ砲火指揮幹部員ハ適任ナル將校分隊長若ハ中少尉ヲ以テ之

ニ充ツルモノトス

砲群指揮官ハ砲火指揮官砲火分擔指揮官、分火指揮官又ハ砲臺長ヲ以テ、燈群指揮官ハ水雷長水雷砲臺長又ハ中少尉ヲ以テ之ニ充ツルモノトス

其ノ他ノ分隊長ハ席次ノ如何ニ拘ハラズ性質技能等ニ鑑ミ砲臺長、水雷砲臺長若ハ適當ナル分隊ニ配スルモノトス

二、一定ノ職名ヲ有セサル准士官以上ハ其ノ性質、技能等ニ應シ適當ナル職務ニ充ツヘシ但シ中少尉及機關中少尉ハ平時其ノ教育上ノ要求ニ從ヒ適宜其ノ職務ヲ變更スルトヲ得

第十條 下士卒ヲ配置スルニハ左ノ諸號ニ依ルヘシ

一、總テ戰鬪部署ヲ基礎トシ特ニ必要ノ場合ノ外常ニ砲員、彈藥庫員、機械部員等戰鬪部署ニ於ケル區分ノ集團ヲ以テ配員スルヲ原則トシ且戰鬪部署ニ於テ各員ノ動作スル位置ト近接セル場所ニ在ラシムルヲ要ス

二、等級性質、技能學力、軀幹、體力等ニ應シ最モ其ノ適所ニ充ツルヲ要ス但シ各砲、發射管、彈藥庫等ニ配置セララルル兵員ノ分擔職務ハ其ノ重要ナルモノノ外所屬分隊長ヲシテ之ヲ定メシムルモノトス

三、一タヒ配置ヲ定メタルトキハ成ルヘク變更セサルコトニ注意スルヲ要ス

第十一條 旗艦増加員ハ雜部員ノ分隊ニ編入スルヲ例トシ戰鬪部署ニ於テハ左ノ如ク配置スルモノトス

水兵部員 應急員、彈藥庫員、彈藥供給員、電信員、信號員若ハ傷者運搬員等ニ充ツ

軍樂部員 傳令員、彈藥供給員若ハ傷者運搬員等ニ充ツ

主計部員 治療所員若ハ烹炊員等ニ充ツ

第十二條 各分隊員ハ之ヲ右舷直員、左舷直員ニ分チ右舷直員ヲ更ニ第一部員、第三部員ニ分チ左舷直員ヲ更ニ第二部員、第四部員ニ分チ其ノ各舷各部ニ於ケル兵種、等級、員數等ヲ成ルヘク平等ニ區分スヘシ而シテ此ノ如ク區分スルニハ同時ニ左ノ條件ヲ具備セシムルヲ必要トス

- 一、各砲員、各發射管員、各彈藥庫員等ハ成ルヘク各部ニ等シク配スルコト例令ハ一番六時砲員ヲ八名トスレハ其ノ二名宛テ各部ニ配スルカ如シ
- 二、前號ノ如ク各部ニ等シク配スルコト能ハサルトキハ對舷若ハ附近ニ在ル他ノ同種砲ト共通シテ前號ノ如ク配スルコト例令ハ砲員六名ヨリ成ル某一番砲ト之カ對舷ノ二番砲トアルトキハ各砲其ノ四名ヲ各部ニ分チテ配シ一番砲ニ於ケル殘餘ノ一名ヲ第一部

ニ、一名ヲ第二部ニ配シニ番砲ニ於ケル殘餘ノ一名ヲ第三部ニ、一名ヲ第四部ニ配スル
 カ如シ發射管員、彈藥庫員等モ亦之ニ同シ

三、兵種、等級等モ亦前二號ニ準スルコト例令ハ應急員中ノ船匠部員ヲ各部ニ配シ又一
 番六吋砲ノ砲長ヲ右舷直員ニ、二番六吋砲ノ砲長ヲ左舷直員ニ配スルカ如ク又前部六
 吋砲彈藥庫員ニ裝砲兵三名ヲ配スルモノトスレバ其ノ一名ヲ右舷直員トシ他ノ一名ヲ
 左舷直員トスルカ如シ

四、機關部員ハ執レノ舷直員ヲ以テスルモ機關部ノ全作業ニ當ルヲ得セシムルコト例令
 ハ右舷機械注油員八名アリトスレバ四名宛ヲ各舷直ニ配シ其ノ各舷直員トモ同一受持
 タシハ成カ如シ

第十三條 機關部員ノ航海部署ニ於ケル配置ハ左ノ諸號ニ依ルヘシ

一、平時汽走ノ際機關部全員ヲシテ交替機關ノ運轉ニ關係アル作業ニ從事セシムル如ク
 定ムベキモノニシテ一舷直員ヲ以テ一舷直ヲ編成ス但シ運轉ノ緩急ニ應ジ便宜四直又ハ
 三直ニ爲スコトヲ得

二、四直配置ニ在リテハ各部員ヲ以テ各直ヲ編成シ三直配置ニ在リテハ第一部員、第二部

員及第三部員ヲ以テ其ノ各直ヲ編成シ第四部員ヲ適宜三分シテ之ニ分配スルヲ例トス

二、機械部員及罐部員ハ直ノ編制如何ニ關セズ戰鬪部署ヲ基礎トシテ其ノ作業ノ分擔ヲ定メ止ムヲ得サルノ場合ニアラサレハ其ノ基準區分以外ノ作業ニ配置スヘカラス

三、電機部員、補機部員中平時汽走ノ際其ノ部ニ於ケル作業ニ從事セシムル必要アル者ハ戰鬪部署ニ準據シテ其ノ配置ヲ定メ其ノ他ハ便宜機械部若ハ罐部ノ作業ニ配スヘシ

第十四條 機關部員ノ常時受持ハ左ノ諸號ニ依ルヘシ

一、機關部ノ全員ヲシテ平素機關ノ整備ニ當ラシムルヲ旨トシ定ムヘキモノニシテ各舷直互ニ其ノ配置上權衡ヲ失セサルヲ要ス

二、戰鬪部署ヲ基礎トシテ各部ニ於ケル作業ニ配置シ止ムヲ得サル場合ニアラサレハ其ノ部以外ノ作業ニ配置スヘカラス

第十五條 短艇員ノ編制ハ左ノ諸號ニ依ルヘシ

一、「ピンネース」以上ノ短艇員ハ便宜二箇以上ノ分隊ヨリ編成シ其ノ他ノ短艇員ハ分隊ノ區分ニ從ヒテ編成スヘシ例令第一「カッター」ノ短艇員ハ第一分隊員ニ成リ第二「カッター」ノ短艇員ハ第二分隊員ニ成ルカ如シ但シ乗員ノ員數ニ依リ一箇分隊ニテ編成

シ能ハサルトキハ二箇以上ノ分隊ヨリ適宜編成スヘシ

二、各短艇員ハ各舷直ニ一組宛編成スヘシ但シ小艦ニ在リテ此ノ如ク編成シ能ハサル場合ニハ兩舷直員ヲ併セテ一組ノ短艇員ヲ編成シ若シ爲シ得レハ屢々使用スル短艇ニ限リ各舷直ニ別々編成スルヲ要ス

三、短艇員ヲ編成スルニハ各部ヨリ成ルヘク平等ニ取り短艇ヲ派遣スル爲一部ノ戦闘部署ノ勢力ヲ著シク減少セシメサルコトニ注意スヘシ

四、各短艇ニハ若干ノ豫備員ヲ加ヘ編成スルヲ例トス

第十六條 救助艇員、當番艇員及ヒ戰時其ノ他ニ於テ長時間本艦ヲ離ルル如キ特別ノ場合

ニ於ケル短艇員等ハ前條ノ編制ニ拘ルコトナク適宜編成スルモノトス

第十七條 陸戰隊ノ編制ハ陸戰隊規程ニ從ヒ左ノ諸號ニ依ルヘシ

一、小隊ノ各分隊ハ成ルヘク同一ノ分隊ヨリ編成スヘシ例令ハ小隊ノ第一分隊ハ甲ノ分隊ヨリ同小隊ノ第二分隊ハ乙ノ分隊ヨリ取ルカ如シ

二、陸戰隊ハ兩舷直ニテ一組ヲ編成スルモノトス

三、陸戰隊ヲ編成スルニハ各部ヨリ成ルヘク平等ニ取り其ノ上陸ノ爲一部ノ戦闘部署ノ

勢力ヲ著シク減少セシムルコトナク特ニ主砲ノ勢力ヲ維持スルコトニ注意スヘシ

四、守艇員ハ固有ノ短艇員中ヨリ出スヲ例トス

五、陸戰隊員及守艇員ニハ若干ノ豫備員ヲ編成シ置クモノトス

第十八條 銃器ヲ下士卒ニ交付スルニハ左ノ諸號ニ準據スヘシ

一、陸戰隊員(附屬隊員ヲ除ク)ニハ小銃一挺宛ヲ交付スヘシ但シ場合ニ依リ第二號ノ如ク交付スルコトヲ得

二、殘餘ノ小銃ハ二人ニ對シ一挺ノ割合ニ交付スヘシ但シ其ノ方法ハ戰時派遣スルコト多キ短艇員其ノ他所要ノ人員ニ交付シ成ルヘク其ノ同一分隊内ニテ對舷直員中ニ共同使用者ヲ定ムヘキモノトス

三、拳銃ハ陸戰隊ノ附屬隊員ニ交付シ殘餘ハ必要ニ應シ臨時交付スヘシ

第十九條 軍艦始テ本規程ニ依ル艦内ノ編制ヲ爲シタルトキハ砲臺、水雷砲臺、機關部ノ各區分表(別表第一)及ヒ分隊表(別表第二)ヲ海軍大臣ニ提出スヘシ

砲臺、水雷砲臺及機關部ノ區分並分隊ノ編制ヲ變更シタルトキハ其ノ改正理由ヲ附シ前項ニ準シ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第二十條 艦ノ大小、構造、兵裝、艤裝等ニ依リ本規程ニ準據シ能ハサル場合ニハ適宜斟酌スルコトヲ得

二等砲艦並驅逐艦、水雷艇、陸上團隊部等ニ在リテハ適用シ得ル範圍内ニ於テ本規程ヲ準用スヘシ

第二十一條 同種同型式ノ軍艦ニ在リテハ成ルヘク艦内ノ諸編制ヲ同一ナラシムルコトヲ期スヘシ

第二十二條 軍艦部署標準、艦艇配員簿ハ別ニ之ヲ定ム

第二十三條 艦長其ノ艦ノ部署ヲ定メタルトキ又ハ部署ヲ改正シタルトキハ理由ヲ附シ之ヲ海軍大臣及所屬長官ニ報告スヘシ

附 則

本令ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

別表第一(用紙美濃野紙)

軍艦某區分表

一 砲臺區分(別ニ略圖ノ添付ヲ要ス)

(記入例)

第一砲臺

何番	何砲	何番	何砲	何番	何砲	何番	何砲
----	----	----	----	----	----	----	----

第二砲臺

何番	何砲	何番	何砲	何番	何砲	何番	何砲
----	----	----	----	----	----	----	----

以下之ニ準ス

二 水雷砲臺區分

第三類 艦船 艦内編制規程

四七

1142

(記入例)

艦首發射管
第一水雷砲臺 何番發射管
何番發射管

以下之ニ準ス

三 機關部區分

(記入例)

右舷機械部 機關部工場ヲ之ニ屬ス

左舷機械部 機關科倉庫(機關科兵器倉庫ヲ除ク)ヲ之ニ屬ス

第一罐部(一號罐ヨリ) 前部煙突及一番ヨリ八番ニ至ル炭庫ヲ之ニ屬ス

第二罐部(九號罐ヨリ) 中部煙突及九番ヨリ十六番ニ至ル炭庫ヲ之ニ屬ス

第三罐部(十七號罐ヨリ) 後部煙突及十七番ヨリ二十四番ニ至ル炭庫ヲ之ニ屬ス

電機部 機關科兵器倉庫ヲ之ニ屬ス

補機部

1143

別表第二(用紙美濃野紙)

軍艦某分隊表

(例一)

第一分隊(砲臺分隊)

	兵種 特技章別		職階部署 ニ於ケル 配置員 (記入例)										
	砲臺	附下士	何番	何砲員	何番	何砲員	下士		卒				
							科修 科高等 科普通 無章	科修 科高等 科普通 無章					
何運 彈藥員													
何揚 彈藥員													
何彈 藥庫員													
何番 何砲員													
何番 何砲員													
何番 何砲員													
何番 何砲員													
何運 彈藥員													

第三類 艦船 艦内編制規程

四九

第三類 艦船 艦内編制規程

五〇

計	烹炊員	傷者運搬員	治療所員	傳令員	運彈藥員	信號員	應急員	操舵員 (記入例)	兵種 特技章別		計	傳令員
									戰闘部署 ニ於ケル配置員	二於ケル配置員		
									科特修	下		
									科高等			
									科普通			
									無章	士		
									科特修			
									科高等	卒		
									科普通			
									無章			
									備人			
									計			
									記事			

第五分隊

1145

計	左舷					右舷					戰術部署 ニ於ケル 配置員 (記入例)	兵種 特技章別	
	倉庫員	燈火員	機械室傳令員	注油員	迎轉下士	應急作業員	燈火員	機械室傳令員	注油員	迎轉下士			
												高等科	下士
												普通科	
												無章	卒
												高等科	
												普通科	
												無章	備入
													計
													記
													事

(例三)

第七分隊

大正三年
令一二三改

第三類 艦船 軍艦部署制定及艦船派遣警備ノ件

五二

明治四十四年十二月九日内令第二百二十九號

軍艦部署ハ別冊軍艦部署標準草案ニ依リテ制定スヘシ

別冊草案ハ之ヲ要スル向ニ海軍教育本部ヲシテ配付セシム

大正三年十二月一日官房機密第一四三八號

艦船派遣ニ關シ其ノ區域左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニハ當分ノ間當該司令長官、司令官
ハ本大臣ノ承認ヲ受ケ之ヲ派遣スルコトヲ得ル儀ト心得ヘシ

一 吳、佐世保、舞鶴鎮守府所屬艦船 北緯三十七度以北ノ朝鮮沿海及北緯二十六度以南ノ
本邦沿海

二 第一、第二艦隊所屬艦船 東亞露領沿海、支那沿海、北緯三十七度以北ノ朝鮮沿海、北緯
四十四度以北及北緯二十六度以南ノ本邦沿海

三 第三艦隊所屬艦船 本邦沿海 張樽、拉彭湖、
列島ヲ除ク

四 旅順要港部所屬艦船 支那ニ於ケル警備區域内ニ在ル外國租借地

五 馬公要港部所屬艦船 支那ニ於ケル警備區域内ニ在ル外國租借地及北緯三十七度以北

1147

朝鮮沿海

明治四十一年十二月二十四日内令第二百三十八號

一 第三艦隊司令官ハ必要ニ應シ麾下ノ艦船ヲ本邦沿岸(臺灣及澎湖列島ヲ除ク)ニ派遣スルコトヲ得セシメラル

二 (略ス)

大正三年十二月一日内令第三百四十六號

馬公要港部司令官ハ必要ニ應シ麾下艦船ヲ揚子江以南ノ支那沿海ニ派遣シ警備ノ事ニ關シ

第三艦隊ト協力セシメラル

明治四十三年五月十一日官房機密第二七〇號

練習艦ノ行動其ノ他ニ關スル件ニ付別紙ノ通海軍教育本部長ヘ訓令候條此旨心得ヘシ

(別紙)

明治四十三年五月九日官房機密第二六九號(海軍大臣ヨリ教本長ヘ)

四十三官房機密六四七
四十五官房機密六八八
大正三年官房機密四三三
三改

第三類 艦船 練習艦ノ行動其他ノ件

五三

練習艦ノ行動其他ノ件

其ノ部下諸學校長ニ於テ練習ノコトニ關シ當該學校長ノ指揮ヲ受ケシメラレタル練習艦艇ヲ航海セシムルニハ左ノ諸項ニ依ラシムヘシ

- 一、諸學校長ニ於テ學生生徒練習生等教育ノ爲練習艦艇ヲ航海セシムルヲ要スルトキハ所管鎮守府司令長官ノ承認ヲ經テ當該鎮守府所管海軍區及隣區内ヲ巡航セシムルコトヲ得
- 二、前號ノ場合ニ於テ諸學校長ハ教育上ノ必要ニ應シ臨時部下諸員ヲ練習艦艇ニ乗組マシムルコトヲ得

(中略)

右訓令ス

明治四十一年三月十四日內令第四十五號

驅逐艦ノ警備就役及其解役ハ海軍大臣之ヲ指定スルコトニ定メラル

大正三年八月十日內令第百十八號

三十八年内
令七五三
四十一内
令二四四
二一
四十四内
令五六五
大正二年内
令四一
大正三年内
令六改

水雷艇ノ警備就役ハ當該所管鎮守府司令長官若ハ要港部司令官之ヲ指定スルコトニ定メラ
ル

明治三十六年十月十六日海總第三四八七號(鎮守府要港部)

水雷艇ノ役務變更ハ其都度届出ヘシ

明治三十九年一月二十三日内令第三十三號

潜水艇ノ警備就役ハ其所管鎮守府司令長官若ハ要港部司令官之ヲ指定スルコトニ定メラ

明治三十三年十月三日内令第二百二十七號

豫備艦艇規則左ノ通改メラ

豫備艦艇規則

第一條 豫備艦ハ之ヲ本籍鎮守府ノ軍港ニ繋維スルヲ例トス

第二條 豫備艦ハ左ノ四種ニ區別ス

第三類 艦船

水雷艇警備就役指定 水雷艇役務變更届出方 潜水艇警備就役指定
豫備艦艇規則

五五

1150

一 第一豫備艦

二 第二豫備艦

三 第三豫備艦

四 特別豫備艦

第一豫備艦トハ其ノ船體、機關、機裝及兵裝總テ完備シ若ハ小修理小検査等ノ箇所アルモ急速就役シ得ヘキモノヲ謂フ

第二豫備艦トハ其ノ船體、機關、機裝及兵裝ノ修理改造若ハ検査ニ著手シ若ハ著手セントシ之ヲ終ラサレハ就役シ難キモ解装スルニ至ラサルモノヲ謂フ

第三豫備艦トハ其ノ船體、機關、機裝及兵裝ノ大改造大修理總検査等ノ爲解装スルモノヲ謂フ

特別豫備艦トハ内地ニ於テ製造シ海軍工廠長艦長間ノ授受ヲ了スルモ未タ役務ヲ指定セラルルニ至ラサルモノ及其ノ船體等ノ現状如何ニ關セス外國ニ於テ竣工又ハ購買シタル日ヨリ本邦指定ノ地ニ回航シ後令ヲ受クルニ至ル間ノモノヲ謂フ

第三條 (削除)

第四條 第一豫備艦ニ在テハ在役艦ト略ホ同一ニ物件ヲ充實シ榴彈、火藥其ノ他危險物及自然ニ變質又ハ損傷シ易キモノハ鎮守府司令長官ノ許可ヲ得テ適宜陸揚シ豫備艦倉庫若ハ便宜ノ倉庫ニ收ムヘシ

第五條 第二豫備艦ニ在テハ榴彈、火藥其ノ他危險物及自然ニ變質又ハ損傷シ易キ物件ハ之ヲ陸揚シ其ノ他ノ物件ハ修理改造検査ノ程度若ハ場合ノ緩急ニ應シ鎮守府司令長官ノ許可ヲ得テ陸揚シ豫備艦倉庫若ハ便宜ノ倉庫ニ收ムヘシ

第六條 第三豫備艦ニ在テハ其ノ物件ヲ概ネ左ノ如ク處理スルモノトス但シ修理改造検査ノ程度乘員艤裝員等ノ多寡ニ應シ船體保安教育訓練等ニ必要ナルモノ又ハ保管上殘置ヲ便利ト認ムル物ハ收藏若ハ還納スルコトナク成ルヘク之ヲ本艦ニ殘置スヘシ

一 口徑六吋以下ノ砲煩ハ之ヲ兵器庫又ハ便宜ノ倉庫ニ收ム

口徑六吋ヨリ大ナル砲煩モ必要アルトキハ亦之ヲ陸揚スルコトヲ得

二 大砲小銃ノ彈藥、小銃、拳銃及諸火工品等ハ之ヲ兵器庫ニ還納ス

三 水雷、發射機、空氣壓搾唧筒、爆發物、探照燈、發電機、無線電信機及諸附屬品等ハ兵器庫ニ收ム

四 雷品中定備品及豫備品ハ豫備艦倉庫若ハ便宜ノ倉庫ニ收ムヘシ

五 祕密圖書測器海圖治療品被服糧食及雷品中消耗品ハ各其ノ供給廳ニ還納ス

六 小蒸汽船端舟艙裝品及機關附屬物ハ適當ノ倉庫ニ收ム

七 艦艇記録及機關其ノ他ノ經歷ニ關スル諸記録、配員及部署ニ關スル簿冊並諸物件ノ定額表其ノ他必要ノ書類等ハ本艦ニ於テ之ヲ保管ス但シ全ク定員若ハ機裝委員ヲ置カサル艦ニ在テハ保管廳ニ於テ之ヲ保管ス

八 (削除)

九 前諸號ノ處理ヲ爲シタルトキハ陸上ニ收藏シ及供給廳ニ還納シタル物件ト艦内ニ殘置セシ物件トヲ明瞭ニ區別シ其ノ品目表ヲ調製シ各一冊ヲ本艦及保管廳ニ備フヘシ

第七條 豫備艦ヨリ陸揚スル物件供給廳ニ還納スル物件ハ除クニハ其ノ大小ヲ問ハス悉ク艦名ヲ附スヘシ又倉庫ニ收藏スル物件ニシテ便宜ノ爲箱中ニ合納スルモノニハ其ノ箱上ニ品名員數及艦名ヲ記スヘシ

第八條 海軍大臣ハ必要ニ應シ特別豫備艦ニ搭載スヘキ物件ヲ臨時指定スルコトヲ得

第九條 第一豫備艦特別定員ヲ置キタル軍艦ヲ除クノ巡航日數ハ大演習及小演習ニ從事スル日數ヲ除キ航海

及碇泊ヲ合シ每一箇月ニ十二日ノ割トシ三十日ヲ超過セサル限リ連續出動スルコトヲ得
但シ必要アルトキハ海軍大臣之ヲ變更スルコトヲ得

第十條 第一豫備艦 特別定員ヲ置キ
タル軍艦ヲ除クハ在役艦ニ準シ規定ノ速力試験、砲熷水雷ノ發射及其ノ
他教練諸演習ヲ施行スヘシ但シ已ムヲ得サル事情アルトキニ限リ鎮守府司令長官ノ許可
ヲ受ケ共ノ一部ヲ行ハサルコトヲ得

第十一條 特別定員ヲ置キタル第一豫備艦、第二、第三及特別豫備艦ハ艦ノ現状ノ許ス限リ
相當ノ教育訓練ヲ行フヘシ但シ特別定員ヲ置キタル第一豫備艦ニ在リテハ所屬長官ノ認
許ヲ得テ適宜出動スルコトヲ得

第十二條 第三豫備艦ニ在テハ定員ヲ置クト否トニ係ラス解裝事業終了マテ前乘員ヲ留置
スルヲ例トス

第十三條 第一、第二及第三豫備艦ノ種別及之ニ置クヘキ定員ノ種別ハ海軍大臣之ヲ指定
ス

第十四條 豫備艇ハ之ヲ本籍鎮守府ノ軍港若ハ所屬要港部ノ所在地ニ繫維スルヲ例トス

第十五條 豫備艇ヲ左ノ三種ニ區別ス

一 第一豫備艇

二 第二豫備艇

三 特別豫備艇

第一豫備艇トハ水雷艇、潜水艇ニシテ其ノ船體、機關、艤裝及兵裝總テ完備シ若ハ小修理小検査等ノ箇所アルモ急速就役シ得ヘキモノヲ謂フ

第二豫備艇トハ水雷艇、潜水艇ニシテ改造、修理若ハ検査ニ著手シ若ハ著手セントシ之ヲ終ラサレハ就役シ難キモノ或ハ其ノ現狀ノ如何ニ關セス解裝スルモノヲ謂フ

特別豫備艇トハ水雷艇、潜水艇ニシテ内地ニ於テ製造シ海軍工廠長艇長(艇隊司令 潜水艇隊司令)間ノ

授受ヲ了スルモ未タ役務ヲ指定セラルルニ至ラサルモノ及其ノ船體等ノ現狀如何ニ關セス外國ニ於テ竣工又ハ購買シタル日ヨリ本邦指定ノ地ニ回航シ後令ヲ受クルニ至ル間ノモノヲ謂フ

第十六條 豫備艇ニハ通常全定員ヲ置クヲ例トスルモ其ノ狀況ニ應シ適宜ノ定員ヲ置クコトヲ得

第十七條 第一豫備艇ハ就役ニ必要ノ物件ハ總テ之ヲ充實搭載スヘシ但シ平常左ノ物件ハ

所屬倉庫所屬母艦艇若ハ便宜ノ倉庫ニ收メ置クコトヲ得

一 魚形水雷及携帶兵器

二 彈藥其ノ他爆發性物品

三 糧食及被服

四 圖書、測器及需品

第十八條 第二豫備艇ハ艇ノ保安等ノ爲必要ナルモノ及船體ニ固著スルモノ、外總テ之ヲ陸揚シ所屬倉庫所屬母艦艇若ハ便宜ノ倉庫ニ收メ置クモノトス但シ所屬長官ハ修理改造検査ノ程度ニ應シ艇内ニ殘置スルヲ便利ト認ムルトキハ其ノ一部若ハ全部ヲ陸揚セシメサルコトヲ得

第十九條 豫備艇ヨリ陸揚スル物件ハ第七條ニ準スヘシ

第二十條 必要ニ際シテハ海軍大臣ハ特別豫備艇ニ搭載スヘキ物件ヲ臨時指定スルコトヲ得

第二十一條 第一豫備艇 特別定員ヲ置キタル艇ヲ除クノ巡航日數ハ大演習及小演習ニ從事スル日數ヲ除キ航海及碇泊ヲ合シ每一箇月ニ十二日ノ割トシ三十日ヲ超過セサル限リ連續出動スルコト

ヲ得但シ必要アルトキハ海軍大臣之ヲ變更スルコトヲ得

第二十二條 第一豫備艇 特別定員ヲ置キタル艇ヲ除クハ在役艇ニ準シ規定ノ速力試験砲煩水雷ノ射撃演習及其ノ他ノ教練操練ヲ行フヘシ

第二十三條 特別定員ヲ置キタル第一豫備艇、第二豫備艇及特別豫備艇ハ其ノ現状ノ許ス限リ相當ノ教育訓練ヲ行フヘシ但シ特別定員ヲ置キタル第一豫備水雷艇ニ在リテハ所屬長官ノ認許ヲ得テ適宜出勤スルコトヲ得

第二十四條 第一及第二豫備艇ノ種別及之ニ置クヘキ定員ノ種別ハ鎮守府司令長官若ハ要港部司令官之ヲ定メ海軍大臣ニ報告スヘシ但シ士官以上(兵曹長同相 當官ヲ除ク)ノ定員ヲ變更スルトキハ豫メ海軍大臣ノ認許ヲ受クヘシ

第二十五條 豫備驅逐艦ニ關シテハ第二十四條ヲ除クノ外本則中豫備艇ノ規定ヲ準用ス

第一、第二豫備驅逐艦ノ種別及之ニ置クヘキ定員ノ種別ハ海軍大臣之ヲ指定ス

大正三年八月十六日官房第二三五二號

驅逐艦水雷艇特設砲艦工作船病院船運送船通信船其ノ他海軍用船本省備上ニ係ルモノハ明治三十七年官房第一五五八號ニ依リ航泊記事摘要報告ヲ進達スヘシ

(以下略ス)

參照

明治三十七年官房第一五五八號ハ驅逐艦水雷艇其他戰地派遣ノ用船航泊記事摘要報告調製進達ノ件(海軍諸例則卷ニ艦船ニ出ツ)

第三類 艦船 驅逐艦水雷艇特設砲艦等航泊記事摘要報告進達

六三

1158

第三類 艦船

運送船等望樓所在地附近海面竝艦艇ノ近傍通過ノトキ國旗及船名
符字信號掲揚方、海戰ニ於ケル我艦損害ノ程度等公言戒飭及諸報
告物品提出方

六四

○運送船等望樓所在地附近海面竝艦艇ノ近傍通過ノトキ國旗

及船名符字信號掲揚方

明治三十七年七月二十一日官房機密第一〇六三號(海軍次官ヨリ各鎮守府司令長官各要港部司令官へ)

運送船等ニシテ望樓所在地附近ノ海面ヲ航シ又ハ我艦艇ノ近傍ヲ通過スルトキハ距離ノ遠近ニ關セス必ス鮮明ナル國旗ト船名符字信號ヲ掲揚スル様嚴達相成度此段申進候也

○海戰ニ於ケル我艦損害ノ程度等公言戒飭及諸報告物品提出方ノ件

明治三十七年八月二十九日官房機密第一二〇四號(海軍次官ヨリ各鎮守府司令長官艦隊司令長官へ)

海戰ニ於ケル我艦ノ損害ノ程度等ハ軍機ノ祕密トシテ公言スヘカラサル義ニ有之候處往々某々ノ談トシテ之ヲ新聞紙上ニ公ニスルモノ有之(中略)又現在又ハ將來ノ參考トナルヘキ諸報告又ハ物品ハ先ツ速ニ其筋ヘ提出セラルヘキモノナルハ言ヲ須タサル義ニ候處此等ノ手續ニ及ハスシテ既ニ新聞紙上ニ見ハルルモノ有之(中略)此等新聞紙上ノ事實ノ海軍部内ヨリ出ルコト有之候テハ甚ダ不都合ニ候條嚴ニ貴部下ニ對シ戒飭セラルル様致度依命此段

1159

申進候也

明治四十四年五月廿三日官房機密第二六七號(海軍次官ヨリ各艦長ヘ)

水雷敷設用ニ艦装セラレタル艦船ニ關シテハ部外ニ對シ秘密ニ保ツヘキ件

今般軍艦高千穂ヲ水雷敷設用ニ艦装セラレ又今後他艦船ニ同様ノ艦装ヲ施行セララルル場合モ可有之候處帝國海軍ニ此種艦船ノ存否竝ニ該艦船ニ於ケル水雷敷設ノ裝置ハ部外ニ對シ嚴ニ秘密ニ保ツテ緊要ト認メラレ候就テハ可然御部下ヘ通達方御取計相成度
右依命申進ス

明治三十七年十二月二日内令第四百五十三號

今般潛水艇ヲ帝國海軍ニ採用セシメラレタルニ付テハ之カ構造等ニ關スルコトハ勿論其他右潛水艇ニ對シ帝國海軍カ施設シ又ハ施設セントスル一切ノ事項ハ總テ部外ニ對シ特ニ秘密ヲ嚴守スヘシ

○艦船乘員中密輸入ノ嫌疑アル者尋問方等稅關官吏ヨリ請求ノ場合處置方

明治四十年十一月三十日官房機密第四八七號(海軍次官ヨリ各艦守府各艦隊司令長官ヨリ獨立艦隊司令官各要港部司令官ヘ)

第三類 艦船

水雷敷設用ニ艦装セラレタル艦船ニ關シテハ部外ニ對シ秘密ニ保ツヘキ件 六五
潛水艇ノ構造又ハ之ニ付テ施設等ニ關スル事項ハ特ニ秘密ヲ嚴守スヘキ件

第二類 艦船

艦船乗員中密輸入ノ嫌疑アル者尋問方等税關官吏ヨリ請求ノ
或合處置方艦船外ノ航海ヨリ歸著陸揚揚場中有稅品取扱ノ件

六五ノ二

税關官吏カ艦船乗員中密輸入ノ嫌疑アリトノ理由ヲ以テ強制的ニ海軍艦船ニ入り込ミ障
檢搜索ヲ爲スコトヲ認ムルコト能ハサルハ勿論ノ儀ニ候得共相當ノ手續ヲ經テ乗組員ニシ
テ違反ノ嫌疑アル者ヲ尋問シ又ハ其所持品ヲ點檢スルコトヲ請求スル場合ニハ可成之ニ便
宜ヲ與フルコト至當ト認メラレ候條麾下艦船等ニ對シ可然訓示方取計相成様致度右依命申
進ス

明治四十三年八月十七日官房機密第四六〇號(海軍大臣ヨリ各鎮第一第二艦隊司令長官第三練習艦隊司令官各要司令官宛)

艦船外國航海ヨリ本邦港灣へ歸著陸揚揚場中有稅品アル場合ノ取扱ニ關スル件

税關官吏艦船内ニ於テ密輸入嫌疑者尋問ノ件ニ就テハ去ル明治四十年十一月官房機密四八
七號ヲ以テ申進候次第モ有之候處尙ホ艦船外國航海ヨリ本邦港灣へ歸著陸揚揚場中ニ於テ
セントスル外國ニ於ケル購買品中有稅品アル場合ニ於テハ上陸ノ際若ハ上陸後途中ニ於テ
個々ニ税關官吏又ハ專賣局吏員ノ爲メニ檢査セラルルカ如キ煩累ヲ避ケンカ爲メ相當官憲
ト協議ノ上艦船内若ハ便宜ノ定所ニ税關官吏ヲ招致シ總テ一纏メニ其檢査ヲ濟マシ不時ニ
各自ノ行動ヲ阻碍セラルルカ如キ煩累ヲ解除スルノ方法ヲ執ル方雙方ノ便宜ト被認候ニ就
テハ自今可成右様取計ハシメラレ候様致度

(終)

明治四十三年十二月三日官房機密第六三六號

警備其ノ他ノ任務ヲ以テ朝鮮臺灣及清國ノ沿岸ヲ巡航スル艦隊、艦船ハ必要ノ都度特ニ訓令スル事項ノ外左ノ諸項ニ據ルベシ

(中略)

一、警備任務ノ艦隊、艦船ハ事情ノ許ス限リ時々其ノ警備區内ヲ巡航スルベシ
二、艦隊、艦船朝鮮臺灣及清國沿岸ニ在リテハ努メテ朝鮮總督府及地方官、臺灣總督府、帝國外交官領事官並派遣海軍武官等ト氣脈ヲ通シ本艦船ノ進退及乗員ノ内地旅行等ニ關シテハ事情ノ許ス限リ必要ニ應シ豫メ之ト協議スヘシ

三、警備任務ヲ以テ臺灣澎湖列島及福建方面ニ發着スル艦隊、艦船ハ其ノ發着ヲ馬公要港部司令官ト通報シ臺灣澎湖列島警備ニ關シ同司令官ノ協議アラハ事情ノ許ス限リ可成之ヲ應スヘシ
四、清國沿岸ニ在ル艦隊、艦船同國一般及局部ノ事情、同國ト外國トノ關係、同國ト對テハ諸外國ノ行動特ニ陸海軍軍隊艦船ノ來往等ニ注意シ見聞スル毎ニ報告スヘシ

第三類 艦 船

朝鮮臺灣及清國ノ沿岸ヲ巡航スル艦隊艦船ノ據ルヘキ事項

六六ノ一

五、清國ニ於テハ開港場以外ノ港灣ト雖寄泊スルコトヲ得

六、帝國船舶ニ危害ヲ加フル海賊アラハ清國領海内ニ於テモ之ヲ追捕スルコトヲ得但シ之

ヲ捕獲シタルトキハ最寄帝國外交官若ハ領事官ヲ經テ清國官吏ニ交付シ其ノ顛末ハ速

ニ之ヲ本大臣ニ報告スヘシ

七、朝鮮沿岸殊ニ其ノ西岸及南岸ヲ巡航スル艦隊、艦船ハ密輸船、密魚船及海賊ニ對シ常ニ

充分ノ注意ヲ加フヘシ

明治四十三年十二月三日官房機密第六三七號

清國諸港ニ於ケル外國軍艦ノ動靜ハ從來帝國領事官ヨリ軍令部長ヘ通報スルコトニ相成居

候處艦船帝國領事館ノ存在セサル地方ニ碇泊中外國軍艦ノ出入スルモノアルトキハ其ノ都

度直接軍令部長ヘ電報スヘシ但シ該電報ニ要スル暗號書ハ軍令部ヨリ所要ノ向ヘ直接配付

ス

（下略）

大正三年十一月五日内令第二百九十三號
海軍艦政本部ノ計畫ニ係ル左記構造ノ罐ノ呼稱ヲ次ノ通定ム

總稱	區別呼稱	構造
艦本式罐	イ號艦本式罐	一個ノ圓筒形蒸氣「ドラム」ヲ中央上部ニ二個ノ半圓筒形水「ドラム」ヲ下部兩側ニ配置シ蒸氣「ドラム」ト水「ドラム」トヲ多數ノ細管ヲ以テ連結セルモノニシテ管ハ總テ弧形ニ彎曲ス
艦本式罐	ロ號艦本式罐	一個ノ圓筒形蒸氣「ドラム」ヲ中央上部ニ二個ノ圓筒形水「ドラム」ヲ下部兩側ニ配置シ蒸氣「ドラム」ト水「ドラム」トヲ多數ノ細管ヲ以テ連結セルモノニシテ管ノ全數若クハ一部弧形ニ彎曲ス

明治四十三年十二月二十七日内令第二百二十八號

艦艇使用實驗報告規則左ノ通定ム

四十五年內
令一二五
大正三年內
令一一五改

第三類 艦船 艦政本部計畫罐ノ呼稱 艦艇使用實驗報告規則

六六ノ三